

作成番号:0205

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数：2024-205

\*\*\*\*\*

内容：都市居住者は、都市以外の場所に住む人に比べて幸福か？

出典：The urban desirability paradox: U.K. urban-rural differences in well-being, social satisfaction, and economic satisfaction.

Science advances. 2024 Jul 19;10(29);eadn1636. pii: eadn1636.

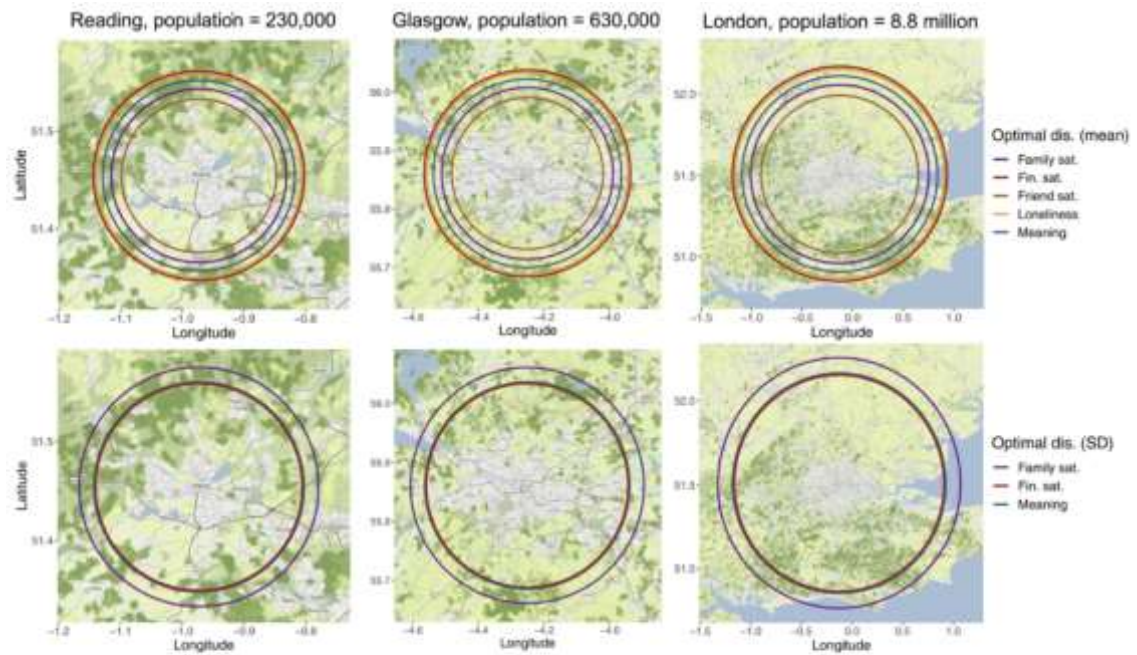
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39028814/>

\*\*\*\*\*

人々は都市に集まる一方である（都市居住者の割合は、1910年代の10%から、2050年には68%になると予測）が、人が最も幸せになれる「ゴールドロックゾーン」は都市なのか？ 都市居住者は、都市以外の場所に住む人に比べて幸福度や経済的な満足度などが高いのか、アムステルダム大学（オランダ）アーバン・メンタルヘルス・センターの心理学者らによるこの研究結果は、「Science Advances」に7月19日掲載された。

UK バイオバンクから抽出した40～70歳の成人156,000人のデータが分析され、最寄りの都市中心部からの距離だけでなく、その都市の人口密度も考慮して、対象者が都市、郊外、農村のいずれに住んでいるのかを評価した。平均的なウェルビーイング、社会的満足度、および経済的満足度がどのように異なるのかを検討した結果、都市に住む人は郊外や農村に住む人よりも所得は高いが、そのことが幸福度を高めているわけではないことが明らかになった。都市に住む人では、そのほかの環境に住む人に比べて、ウェルビーイング、社会的満足度、経済的満足度を測定する8つのドメイン（全般的な幸福度、人生の満足度、家族関係、友人関係、孤独感、所得、経済的満足度、仕事満足度）のうちの7つにおいて低スコアが示された。さらに、最も幸福度が高い（満足度が高く、スコアの変動が少ない）地域は郊外であることも判明した。

郊外という場所が最適な距離として示されたのは、幸福な人がその場所に移り住んでいるからであり、郊外という場所自体がその人の幸福を高めているわけではない可能性がある。



**Fig. 4. Optimal distances.**

Distances with optimal means were observed for five variables, and distances with minimal SD were observed for four variables. We show these optimal distances for three cities with different sizes, Reading (230,000), Glasgow (630,000), and London (8.8 million). The top panel shows the radii with the highest average, and the bottom panel shows the radii with the least variation (we omit the optimal SD radius for friendship satisfaction due to its large scale).